

21世紀のエネルギーを 考える会・みえ

会報 第36号

平成26年4月発行

CONTENTS

| | |
|-----------|------|
| ごあいさつ | 1 |
| 啓発活動 | 2~10 |
| 役員研修・お知らせ | 11 |
| 役員名簿・編集後記 | 12 |

熊野古道ツツラト峠からの眺望



会長 小菅 弘正

ごあいさつ

会員の皆様方には、当会の事業活動につきまして格別のご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の夏は、異常気象による猛暑日、さらにはゲリラ豪雨や竜巻の発生、また、この冬は、日本各地における大雪、そして三重県南部では1962年以降初めての大雪警報が発令される等、これらの異常気象と思える状況は、私たちの生活に多大な影響を及ぼしました。この異常気象は、人間活動による温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響なのではないでしょうか。

そんな中、平成25年度における我が国のエネルギー事情についての現状は、当会活動の指標とも言うべき「エネルギー基本計画」が震災後3年を経過しているにもかかわらず未策定の段階にあり、我が国の持続的発展に繋がる道筋が見えない状況でありました。このような状況下においては、当会の事業活動についても活動の切り口を考える点で難しい事業運営を求められたことから、平成25年度は、震災以降注目されている再生可能エネルギーや地球温暖化問題の影響ではないかとされている異常気象等に焦点を当てた形での講演会や見学会等の啓発活動を行ってまいりました。

また、4月には我が国の中長期のエネルギー政策の指針となる「エネルギー基本計画」が東日本大震災以降ようやく閣議決定される運びとなります。

新たな「エネルギー基本計画」には、我が国が超資源小国であることや地球温暖化問題等、我が国の現実を直視したものが織り込まれ、国民生活と産業活動の持続的な発展に寄与することを期待するものであります。

そこで、当会は、平成26年度においては、新しい国の「エネルギー基本計画」の意図するところをくみ取ったうえで、平成25年度の反省も踏まえての事業活動の推進に力を注ぐとともに、新たな視点での取り組みも加味して諸施策の展開を図ることにより、新たな「エネルギー基本計画」についての理解者層の拡大に努めてまいりますので、今後も会員の皆様のより一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

地区別講演会

気象庁の発表によると、昨年夏の異常気象による猛暑および豪雨は、人間活動による温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響ではないかと言われています。

そんな中、東日本大震災以降、希薄化している地球温暖化問題について改めて考えていただきたく、持続可能な社会、豊かな国民生活に向けた県民の皆様の「正しい理解・判断・行動」に繋がる講演会を開催しました。

松阪 「“異常気象は地球の悲鳴” 温暖化について考えよう」 山本 志織氏 (気象予報士)



プロフィール

横浜市出身。立教大学時代、準ミス立教に選出される。在学中にテレビ朝日「やじうまワイド」のお天気キャスターに起用され、全国的に話題を呼んだ。その後もキャスターやレポーターなどを務めながら、2004年に気象予報士の資格を取得。2005年4月から2011年3月はNHK「ニュース7」(土・日)の気象キャスターを務める。現在は、日テレNEWS24(日・月曜日担当)/東京FMクロノス月間天気キャスター。

開催日 平成26年1月10日(金)

会場 華王殿

共催 明和町商工会、松阪商工会広域連合

参加者 約110名

山本さんは、日本各所で記録的猛暑や台風が数多く発生した昨年の極端な気象事例を紹介。異常気象の主な原因は地球温暖化として、二酸化炭素が増えると気温が上昇し、積乱雲の発生によって集中豪雨が増えている現状を分かりやすく説明した。降水確率の意味や、「大気の状態が不安定」という言葉があれば豪雨に注意するなど、天気予報を見る際のポイントも示しました。

地球温暖化と異常気象は隣り合わせとして、「CO2を減らすには一人一人の意識を高めることが一番の近道。日ごろから省エネを心掛けるとともに、最新の気象情報をチェックして、空模様の変化を敏感に感じてほしい」と呼びかけました。

津 「ヒマラヤから環境問題を考える」 野口 健氏 (アルピニスト)



プロフィール

1973年8月21日、アメリカ・ボストンで生まれる。植村直己氏の著書「青春を山に賭けて」に感銘を受け、登山を始める。7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立。2000年から「富士山が変われば日本が変わる」をスローガンに富士山清掃活動を精力的に行う。2006年からは、富士山・エベレスト同時清掃活動を実施し、エベレスト側の隊長を務めている。さらに、小・中・高・大学生を対象とした「野口健環境学校」を開校。環境大切さを訴え、実践していくメッセンジャーを日本全国に育てている。

開催日 平成26年2月13日(金)

会場 河芸公民館 大ホール

共催 津北商工会、津市商工会、
伊賀市商工会、津・伊賀商工会広域連合

参加者 約350名

野口さんは、平成10年ごろからエベレストにみぞれや雨が降るようになり、雪崩が多くなったことや、屋久島では世界遺産登録で観光客が増えて環境問題が逆に悪化した事例などを紹介。

昨今、議論が盛んな原発問題については、「何も犠牲にしないエネルギーはない。安易に賛成か反対か色分けしたがる傾向にあるが、全体のバランスを考えてみんなでアイデアを出し合っていくことが大切」と呼びかけました。

玉城「異常気象と環境問題 どうなる地球温暖化」^{もりた まさみつ} 森田 正光氏（気象予報士 財団法人日本生態系協会理事）



プロフィール

1950年名古屋生まれ。財団法人日本気象協会を経て、1992年初のフリーお天気キャスターとなる。同年、民間の気象会社 株式会社ウェザーマップ、2002年には気象予報士受験スクール 株式会社クリオを設立。親しみやすいキャラクターと個性的な気象解説で人気を集め、テレビやラジオ出演のほか全国で講演活動も行っている。2005年公益財団法人 日本生態系協会理事に就任し、2010年からは環境省が結成した生物多様性に関する広報組織「地球いきもの応援団」のメンバーとして活動。環境問題や異常気象についての分析にも定評がある。現在TBSテレビ「Nスタ」(月～金) TBSラジオ「森本毅郎スタンバイ!」(水)に出演中。

開催日 平成26年3月23日(日)

会場 玉城町保健福祉会館ふれあいホール

共催 玉城町商工会、志摩・度会商工会広域連合

参加者 約90名

森田さんは、世界各地で起きた気象災害の事例を紹介し、「気象災害で一番怖いのは、干ばつ。疫病がはやり、何万、何千人の人が亡くなることがある。現在、温暖化が進んでおり、100年後には、2度から3度温度が上がる」と、生態系が壊れる怖さを解説した。「できるだけ、自然にはインパクトを与えないようにすること。災害が起きた場合は、今ここにあるものを使うという知恵が大事」と呼び掛けた。

会場には、約100人が詰め掛け、竜巻やエルニーニョ現象など、身近な気象についても分かりやすく説明しました。

名張「異常気象と地球温暖化」^{てらお なおき} 寺尾 直樹氏（気象予報士）



プロフィール

1965年横浜市に生まれる。株式会社伊藤園を経て、1992年民間気象情報会社 株式会社ウェザーニュースへ転職。1999年気象予報士を取得。2001年NHKBSの「地球天気予報」に出演。2002年4月～2009年3月までの7年間、NHK名古屋放送局「ほっとイブニング」気象情報担当。その後、1年間、ウェザーニュースの本社に戻り、インターネット気象情報番組「ソライブ24」で気象解説を担当。2010年3月ウェザーニュースを退社し、同年4月からNHK名古屋と専属契約。再び「ほっとイブニング」等で気象情報を担当。現在に至る。

開催日 平成26年3月30日(日)

会場 リバーナホール

共催 名張女性会

参加者 約100名

寺尾さんは、「最近、想定外の現象が多くて」とこぼし、地球温暖化に伴う天気予報の難しさを紹介。温暖化対策として温室効果ガス削減の必要性を話した。温暖化は人間活動の結果である可能性が高いこと、今世紀末には平均気温が4.8度上昇するとした国際機関の報告データを示し、「4度上昇すると伊賀地域は鹿児島並みになる。農作物に大きな影響が出るだろう」と指摘した。温暖化に伴う現象として、春から台風やゲリラ豪雨が起り、猛暑は秋まで続き、最高気温40度が珍しくなくなるなど、四季の風景が様変わりすると解説した。

「正確な予報を求められるが、経験したことのないような豪雨や豪雪が起り、予報は難しくなっている」と話し、気象災害から身を守るため、地域特有の天気図や5感の活用など呼び掛けた。東海地方に大雨をもたらす可能性が高い天気図も示して説明しました。



公募見学会

県民の皆様方を対象に、エネルギーに関する理解を深めていただくことを目的に公募見学会を開催しました。太陽光発電と水力発電に触れ、環境に優しい再生エネルギーについて正しい理解をいただきました。

第2回エネルギーを考える社会見学

開催日 平成26年12月4日(木) 見学場所 関西電力(株) ^{よみかき}読書発電所、中部電力(株) メガソーラーいいだ 参加者 39名

^{よみかき}読書発電所

「読書発電所」では、ダムでせき止めた水を長い水路で下流に導き、大きな落差を得る「ダム水路式発電」の仕組みなどについて学びました。



■水圧鉄管の前でダム水路式発電所について説明を聞く参加者



■配電盤のはたす役割について説明を聞く参加者

概要

読書発電所(1～3号機)は、大正12年に電力王福沢桃介により造られた水力発電所です。完成時の出力は40,700kWと当時としては最大の容量を誇っていました。その後、昭和35年には、当時の電力需要の増加に対応するために、関西電力では初の地下式発電所となる4号機が増設されました。

平成6年12月には、読書発電所本館ほか施設、水槽・水圧鉄管、柿其水路橋が国の重要文化財(近代化遺産)に指定され、また平成19年6月に経済産業省 近代化産業遺産としても認定されました。



| | 1~3号機 | 4号機 |
|---------|------------------------|------------------------|
| 所在地 | 長野県木曾郡南木曾町 | |
| 河川 | 木曾川 | |
| 発電開始年月日 | 大正12年12月1日 | 昭和35年11月16日 |
| 認可出力 | 44,400kW | 72,700kW |
| 使用ダム | 読書ダム | |
| ダム形式 | ダム水路式 | |
| 使用水車 | 立軸フランシス水車 | |
| 発電機の回転数 | 360回転/分 | 200回転/分 |
| 最大使用水量 | 45.91m ³ /秒 | 73.00m ³ /秒 |
| 有効落差 | 112.12m | 112.16m |
| 溝水路の長さ | 8,426.8m | 8,339.3m |
| 送電電圧 | 154,000V | |

■設備概要(平成23年3月末現在)



電力王 福沢桃介

福沢桃介は、福沢諭吉の娘婿であり、「電力王」と呼ばれた人物です。桃介は、水量が豊富で落差の大きい木曾川こそ水力発電の適地であると考え、大正6年から15年にかけて、日本で初めてのダム式発電所である大井発電所など、7つの水力発電所(賤母・大桑・須原・桃山・読書・大井・落合)を建設しました。また、これらの発電所で発電された電気を、当時電力不足に悩んでいた関西地方へ送るため、亘長200km以上の送電線を建設しました。

昭和26年、関西電力発足の際、木曾川の発電所や送電線は関西電力所有となりました。これは第2次世界大戦後の電力不足のため、関西の経済活動は木曾川の電気なしでは成り立たなかったためです。

現在、木曾川には33の発電所があり、これらは名古屋市にある東海給電制御所より遠方監視制御されています。

国の重要文化財(近代化遺産)



読書発電所本館

本館は鉄筋コンクリート造りのレンガ壁で、半円形の窓や屋上に突き出た明かり窓・飾り壁などアール・デコ調を意識したデザインが施されています。



水槽・水圧鉄管

水槽は正面、側面部分に建設当時のデザインが残され、正面には明治の元老・山縣有朋の肖像レリーフ(レプリカ)が取付けられています。また水圧鉄管も当時のものを現在も使用しています。



柿其水路橋

読書発電所への導水路のうちで、柿其川を渡る鉄筋コンクリート造りの水路橋です。全長142.4m。両端部は桁橋となっています。現存する戦前の水路橋の中では日本最大級の規模を誇ります。

メガソーラーいいだ

飯田市にある中部電力の「メガソーラーいいだ」において、約4,700枚の太陽電池モジュール、発電出力1,000kWの太陽光発電所を見学しました。環境モデル都市である同市にとって自然エネルギー利用のシンボルとなっていることや、太陽光発電のメリット・デメリットなどについて学びました。



■「メガソーラーいいだ」に併設する「おひさまの丘」での参加者



■太陽光発電について説明を聞く参加者

概要

「メガソーラーいいだ」は、環境都市モデルである飯田市にとって自然エネルギー利用のシンボルとなる施設であり、また、中部電力株式会社にとっても初めての事業用太陽光発電所となります。

本発電所の発電出力は1,000kW(1MW)であり、運転開始によるCO2削減量は、年間約400tとなる見込みです。

| | | | |
|------------|-----------------------------------|--------------|------------------|
| 発電所名 | メガソーラーいいだ | 太陽光パネル公称最大出力 | 230W/1枚 |
| 所在地 | 長野県飯田市川路城山(かわじょうやま) | サイズ | 1,658mm×994mm/1枚 |
| 発電所出力 | 1,000kW(1MW) | 重量 | 約20kg/1枚 |
| 想定年間発電量 | 100万kWh (一般家庭300世帯分の年間使用電力に相当) | 太陽電池セルタイプ | 多結晶シリコン |
| 開発敷地面積 | 約18,000㎡ | パネル枚数 | 4,704枚 |
| 想定年間CO2削減量 | 400t | 傾斜角度 | 20度 |

見学会（共催）

当会の会員様がエネルギー関連施設を見学いただくことで、エネルギー問題について考えていただきました。

いなべ市商工会 建設業部会

開催日 平成25年10月11日(金)

見学場所 中部電力(株) メガソーラーたけとよ

参加者 40名

いなべ市商工会事務局

このほど、中部電力(株)「メガソーラーたけとよ」と「武豊火力発電所」の視察見学をさせていただきました。当日は、永崎所長様のユーモアを交えた説明に参加者一同感銘を受けました。また、「メガソーラー」の現状や今後の普及に向けた課題、「武豊火力発電所」が担う重要性や再稼働に至った経緯などの説明を受け、電力供給の現状及び再生可能エネルギーについて正しく理解を深めることができました。

普段、何気なく使っている電気エネルギーについて改めて考える機会を与えていただきましたこと参加者一同感謝しております。

また、エネルギーの安定供給に努めていただいております職員の皆様にも感謝申し上げます。大変有意義な時間を過ごさせていただきありがとうございました。



玉城町商工会

開催日 平成25年11月14日(木)

見学場所 中部電力(株) メガソーラーたけとよ

参加者 26名

「メガソーラーたけとよ」を見学して

玉城町商工会事務局

玉城町商工会では、会員に参加を募って中部電力(株)「メガソーラーたけとよ」の視察見学をさせていただきました。発電出力7,500kWの中部地域最大級の大規模太陽光発電所で、ナゴヤドーム3個分の広大な敷地に整然と並ぶ約39,000枚の太陽光パネルを展望台から一望することができました。太陽光発電のしくみ、電源のベストミックスや低炭素社会の実現に向けた取り組みなどを学びました。

太陽光エネルギーはクリーンなエネルギーで発電時に地球温暖化の原因の一つであるCO2をほとんど排出しません。また、無尽蔵であり無償です。しかし、季節や天候、時刻などに左右され安定した発電量が得られないうえ夜間はほとんど発電できません。

電気は蓄えることができず安定供給のためにはバランスのとれた発電手段の組み合わせが必要であることを改めて考える機会になりました。

その後、日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ2013 ～環境・安全・モノづくり～」を見学して帰路につきました。



津北商工会

開催日 平成25年11月16日(土)

見学場所 中部電力(株) 碧南火力発電所

参加者 16名

碧南火力発電所を視察して

津北商工会事務局

11月16日(土)に、役員研修会として、中部電力(株)碧南火力発電所を視察いたしました。とても大きな発電所であり、石炭火力としては国内最大で、世界でも最大級の発電所と説明を受けました。石炭は環境によくないとのイメージがありますが、碧南火力発電所は、環境に配慮した設備にて運転されているとともに、わたしたちの家庭や会社へ電力を送って頂いている姿に感謝の気持ちがわいてきました。碧南火力発電所には、電力館と花いっぱいヒーリングガーデン、又、野鳥観察ができるエコパークがあり、電気の世界の研修、癒しの空間等いろいろな体験ができました。皆様も、是非とも、碧南火力発電所へ行って頂きたいと思えます。



神戸会

開催日 平成25年11月24日(日)~25日(月)

見学場所 中部電力(株) 名古屋給電制御所、中部電力(株) 浜岡原子力発電所

参加者 32名



■中部電力(株) 名古屋給電制御所



■中部電力(株) 浜岡原子力発電所

津・伊賀ブロック商工会 職員協議会

開催日 平成25年12月7日(土)

見学場所 中部電力(株) 知多火力発電所

参加者 21名

知多火力発電所を視察して

津・伊賀ブロック商工会 職員協議会

津・伊賀ブロック商工会職員協議会では毎年職員の資質向上を目指して研修会を実施しています。本年度は、12月7日(土)に参加者21名で中部電力(株)知多火力発電所を視察させていただきました。

当日は、発電所概要について映像による説明を受けた後、構内をバスで回り建屋内部についても見学・説明を頂きました。

原子力発電所の再稼働の賛否が問われる中クリーンエネルギーであるLNGを燃料としている施設であるとの説明を受け、環境にも配慮されていることを実感しました。

職員一人一人がエネルギーや環境問題について改めて考える良い機会となりました。

最後に研修会開催についてご配慮頂きました21世紀のエネルギーを考える会・みえの皆様にご挨拶申し上げます。



木曽岬町商工会

開催日 平成26年1月29日(水)

見学場所 中部電力(株) 浜岡原子力発電所

参加者 24名

浜岡原子力発電所を見学して

木曽岬町商工会

平成25年度の会員研修として中部電力(株)浜岡原子力発電所の見学を計画しました。

昨年度は町内の木曽岬干拓地において大規模太陽光発電所が建設されるにあたり、太陽光発電について学ぶために、「メガソーラーたけとよ」にて会員研修を実施しました。

今回は原子力発電所の現状と防災対策を見学することで昨年度の太陽光発電と併せて、事業経営者として経済活動に欠くことのできない電力が如何に安全に安定して供給されようとしているかを学ぶことができました。

電力が安全・安心で安定して供給され、且つ低炭素でより環境にやさしいものであるには如何にあるべきか、何がベストミックスなのかを参加者一人一人が見て、聴いて、考えることができたことは大きな収穫であり、今後もエネルギー問題を身近なものとして捉える良い機会でした。



木曾三川流域商工会連絡協議会

開催日 平成26年1月29日(水) **見学場所** 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所

参加者 32名

木曾三川商工会連絡協議会事務局

今回は、木曾三川流域商工会連絡協議会として、愛知・岐阜・三重の三県から県境付近の商工会であります、愛西市商工会・海津市商工会・桑名三川商工会が集まり視察研修会を開催しました。

各商工会の会長をはじめ、30名が参加し、岐阜県土岐市の核融合科学研究所を視察研修させて頂きました。

当日は、核融合科学研究所において、核融合のしくみや原子力との違いについての説明を聞き、施設内の実験装置等も見学させて頂くことができました。参加者の皆様が特に関心を持っていたのは、原子力との違いでした。視察前は同じものと考えていた方が多く、視察前と視察後では核融合エネルギーへの考え方が変わったという感想が大半を占めており、核融合エネルギーへの理解を深める非常に有意義な視察研修となりました。

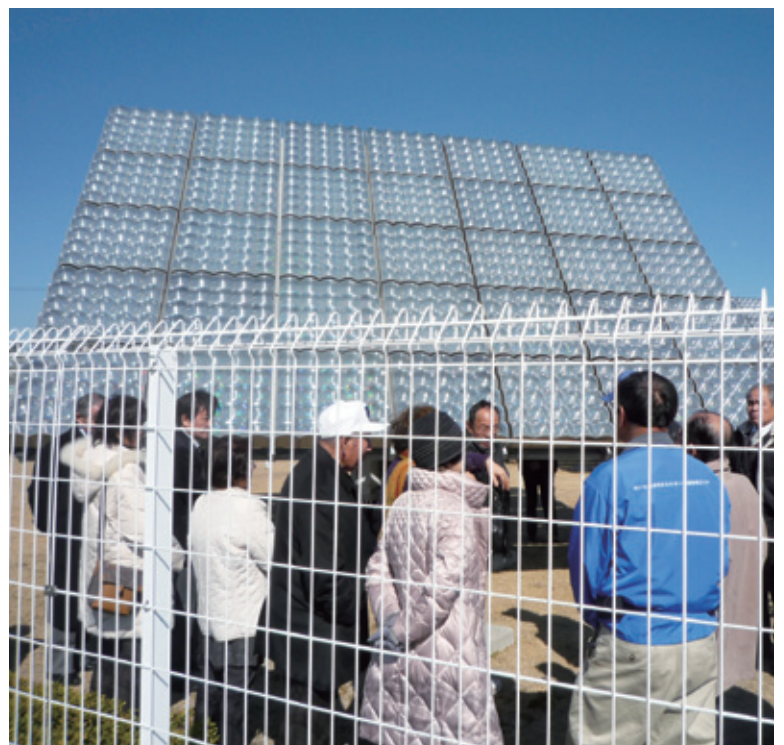
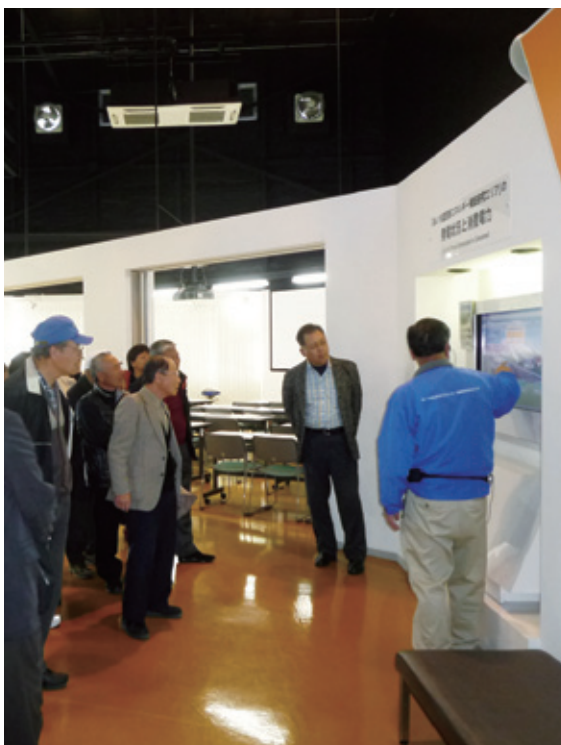
最後に、21世紀のエネルギーを考える会・みえの服部事務局長様に大変お世話になりましたので、心から感謝の意を申し上げます。



視察前は同じものと考えていた方が多く、視察前と視察後では核融合エネルギーへの考え方が変わったという感想が大半を占めており、核融合エネルギーへの理解を深める非常に有意義な視察研修となりました。

楠町商工会

開催日 平成26年3月11日(火) **見学場所** あいち臨空新エネルギー実証研究エリア **参加者** 20名



役員研修

第9回役員懇話会

当会役員を対象に、エネルギー・環境問題に関するご理解をさらに深めていただくことを目的に懇話会を開催しました。



「電力システム改革について」

- 開催日** 平成26年2月25日(月)
- 会場** ホテルグリーンパーク津
- 参加者** 39名
- 講師** 勝野 哲^{かつの きたる}氏 (中部電力株式会社代表取締役 副社長執行役員)

平成25年4月2日に閣議決定された「電力システムに関する改革方針」の概要について説明を受けました。

本改革は「電気の安定供給を確保すること」、「電気料金を最大限抑制すること」、「需要家の選択肢や事業者の事業機会を拡大すること」の目的達成に向け、①広域系統運用機関の拡大、②小売業への参入の全面自由化、③発送電の法的分離ならびに小売料金の全面自由化の3段階に分けて実施されますが、本改革における電力事業者の課題としては、電力の安定供給確保に向けた電気の品質維持や災害時における発電、送配電の協調した復旧等であると話されました。

お知らせ

平成26年度「総会」について (ご案内)

| | |
|--|--|
| 会場 平成26年6月12日(木) | |
| 総会 13:00 ~ 14:00 記念講演会 14:15 ~ 15:45 | |
| 会場 三重県総合文化センター 多目的ホール(フレんテみえ1階) (津市一身田上津部田1234 TEL059-233-1111) | 講師 平野 裕司 ^{ひらの ゆうじ} 氏 (東京湾埠頭株式会社 代表取締役社長) 演題 「船と港の物語」 |

当会の活動をより多くの県民の皆さま方に知っていただくためレディオキューブ FM三重で当会のコマーシャルを放送しております。当会の活動理念である「低炭素社会の実現」の重要性を説明したり、当会行事の案内を行ったりしています。ぜひお聴きになってください。

| | | | |
|-------------|---------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 放送時間 | 月曜日 8:25 ~ 8:27 | 木曜日 17:48 ~ 17:50 | 土・日曜日 毎月5回放送 |
|-------------|---------------------------|-----------------------------|------------------------|

会員の募集

当会では、会員の募集を行っています。
21世紀におけるエネルギー・環境問題を共に考え、行動する人の「輪」を広げています。
当会にご関心をお持ちの未入会の企業、団体、一般の方に一声お掛けいただきますよう、お願いいたします。

役員名簿・編集後記

役員等一覧 (平成26年4月1日現在)

■ 会長

小菅 弘 正 (四日市商工会議所 顧問)

■ 副会長

小林 長久 (三重県商工会議所連合会 会長)
 藤田 正美 (三重県商工会連合会 会長)
 佐久間 裕之 (三重県中小企業団体中央会 会長)
 岡本 直之 (三重県経営者協会 会長)
 藤原 義之 (三重友愛連絡会 議長)
 井坂 紀之 (エネルギー問題三重県研究会 代表世話人)

■ 理事

岡上 直之 (三重県商工会議所連合会 副会長)
 本島 憲三 (同上)
 上谷 憲三 (同上)
 山本 忠之 (同上)
 横川 敬之 (同上)
 川口 秀平 (四日市商工会議所 専務理事)
 奈須 邦晃 (三重県商工会連合会 副会長)
 服部 基恒 (同上)
 辻 丈昭 (同上)
 坂 下 啓登 (同上)
 藤 村 達博 (三重県中小企業団体中央会 副会長)
 竹 尾 光忠 (同上)
 三 林 弘光 (同上)
 向 井 光稔 (同上)
 黄 瀬 恵子 (同上)
 伊 藤 征輝 (三重県経営者協会 副会長)
 高 崎

■ 理事

稲葉 邦成 (三重県経営者協会 副会長)
 浅田 剛正 (同上)
 内田 淳 (同上)
 小川 謙 (同上)
 眞壁 雅夫 (同上)
 渡辺 夫治 (同上)
 浅野 啓介 (電機連合三重地方協議会 副議長)
 法所 誠 (自動車総連三重地方協議会 議長)
 木村 敬明 (UAゼンセン三重県支部 運営評議会副議長)
 長谷川 誠 (JEC連合三重県地方協議会 幹事)
 伊藤 圭一 (日産労連三重地方協議会 議長)
 宮崎 三三 (交通労連中部地方総支部三重県支部 支部長)
 東 敏久 (基幹労連三重県本部 委員長)
 広 垣和彦 (電力総連三重県電力総連 会長)
 高北 和司 (公益社団法人 日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会 会長)
 梶 田 淑子 (三重県地域婦人団体連絡協議会 会長)
 青 藤 重孝 (三重県新生活運動推進協議会 会長)
 山 下 英雄 (公益社団法人 三重県医師会 会長)
 瀬 河 英雄 (一般社団法人 三重県建設業協会 会長)
 鯉 江 一雄 (社団法人 三重県建築士会 会長)
 渡 邊 一雄 (三重県商店街振興組合連合会 理事長)
 楠 修次 (三重県電器商業組合 理事長)
 柳 伊藤 達雄 (三重県電気工業工業組合 理事長)
 堀 博 敏 (三重県一般労働組合同盟 常任顧問)

■ 理事・事務総長

奈須 庄平 (四日市商工会議所 専務理事)

■ 事務局長

服部 勝 (21世紀のエネルギーを考える会・みえ)

■ 運営幹事

藤本 和弘 (三重県商工会議所連合会 専務理事)
 遠藤 修一郎 (三重県商工会連合会 事務局長)
 別所 浩己 (三重県中小企業団体中央会 事務局長)
 西場 康弘 (三重県経営者協会 専務理事)
 長谷川 善樹 (電機連合三重地方協議会 事務局長)
 竹内 孝昇 (電力総連三重県電力総連 事務局長)

■ 広報委員長

長谷川 善樹 (電機連合三重地方協議会 事務局長)

■ 広報委員

藤本 和弘 (三重県商工会議所連合会 専務理事)
 遠藤 修一郎 (三重県商工会連合会 事務局長)
 別所 浩己 (三重県中小企業団体中央会 事務局長)
 西場 康弘 (三重県経営者協会 専務理事)
 竹内 孝昇 (電力総連三重県電力総連 事務局長)

編集後記



事務局長 服部 勝

平素は、当会の活動に対しまして格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今号は、平成25年度下期に実施した事業活動を主に編集いたしました。

下期は、地球温暖化や環境問題が起因しているのではないかとわれております異常気象に関する講演会や、震災以降注目されている再生可能エネルギー施設の見学会を開催させていただきました。

多くの皆様にご参加をいただき誠にありがとうございました。

今後もエネルギー・環境問題について、「正しい理解・判断・行動」に繋がる啓発活動を展開してまいります。

これまで年2回発行しておりました会報誌ですが、諸般の事情により本年度から年1回の発行とさせていただきます。

充実した内容の会報誌発行に向け、今後も尽力いたしますので、会員の皆さまにおかれましては、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

シンボルマーク

“共生”



「みえ」のイニシャル「M」と自然のイメージをモチーフに、自然環境と暮らし、エネルギーの共生を表現しています。色は海のブルーと樹木のグリーン、図形は地球であり、「三重」の海と山、美しい海岸線でもあります。ダイナミックな「M」で、未来に向けて発展していくエネルギーの躍動感を表しました。

■ お問い合わせ先(事務局)

〒514-0004
 津市栄町3丁目248番地
 きりんセカンドビル302号
 TEL&FAX(059)229-3790
 HP▶<http://www.e-mie21.com/>